



自分の子を捨て、まだ生まれてもいない他人の子に任せてはくばならないことを思うと、女は思わず万丈の崖に身を投げた。だが雇ってもらえないと、すぐさま生活が重くのしかかってくる。子供としばらく離れることになるが、将来また一緒にという望みは残っている。でないと思死んでしまっただけだ……女はそう考えながら雨の中に消えていく雇い主の背を見送っていた。女は決心すると、急いで口入れ屋を出、子供を抱き、ぼろぼろの唐傘をさし、孤児院の方へと走っていった。

馮鏗 著

子を売る女

二玄社『中国現代文学珠玉選 [小説3]』より

……やがて、この次第を少しづつ飲み込むと、「細妹、孤児院なんかに行っちゃ駄目だよ。こんな乳飲み子をあそこに入れるのは、脂身を虎の口に差し出すようなもんさ。生きてるわけなどあるもんか」と真顔で言った。「何で？ 孤児院は貧乏人に代わって子供を育ててくれるところでしょ。なのに何でそんなことを言うの……」、女には朱の話が解せなかった。「外には聞こえのいいことを言ってるけど、中はまったく醜いものさ。姪が子供を育てられなくなって、生まれて三ヶ月にもならない

中国の小説に興味がある方、本を読むのが好きな方、一緒に「読書会」をしませんか。

9/29 土
12:30~14:30

立命館孔子学院図書室
(立命館大学国際平和ミュージアム2階)

読書会

参加無料

講師：永井 英美 氏
(立命館孔子学院中国語講師)

読書会は原則隔月で偶数月に開催します。

中国の短編小説を日本語訳で読んで感想を語り合い、また作者について学びます。(なるべく事前に該当月の作品を読んできてください。)

■テキスト・作品

現在、二玄社『中国現代文学珠玉選 [小説3]』所収の作品を順に読んでいます。テキスト購入費は参加者負担ですが、現在絶版となっておりますので、古書か、図書館などをご利用ください。また、開始30分以上前にお越しくださいれば事務局で作品のコピーをお渡しすることもできます。

■お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話、FAXもしくはメールでご連絡下さい。

